

since 1995

30th
anniversary

社会福祉法人 二津屋福祉会
(ロゼホーム つきみ野)

法人設立 30周年記念誌





目次

基本理念	2
理事長あいさつ	
社会福祉法人 二津屋福社会理事長 大谷賢二	3
祝辞	4
大和市長	古谷田 力 様
大和市社会福祉協議会会長	濱田 和博 様
二津屋福社会財務顧問（税理士）	鈴木 康太 様
評議員（役員等代表）	細野 武文 様
設立時のエピソード	8
二津屋福社会業務執行理事	大谷 徳治
職員等の思い出	10
・施設長	大谷 誠
・経営財務室長	高下 洋平
・事務長	大谷 晶浩
・特養サービス指導室長	出口 生美
・特養主任生活相談員	八里 展郎
・デイサービス主任	上原 健
・特養介護主任	針 裕視
役員等退任者記録	14
組織図	15
役員構成／職員構成	16
法人誕生からの沿革	17
施設・事業所紹介	20
・特別養護老人ホーム ロゼホームつきみ野	
・デイサービスセンター ロゼホームつきみ野	
・居宅介護支援事業所 ロゼホームつきみ野	
・下鶴間つきみ野地域包括支援センター（大和市委託事業）	
・軽費老人ホームケアハウス ロゼホームつきみ野	
編集後記	26





法人基本理念

1

人と人、自然、音楽等とのふれあいの中で、
利用者が感動するロゼホームつきみ野を目指します。

2

人生の先輩である高齢者に対し傲慢にならずに、
謙虚な姿勢でサービスの提供をロゼホームつきみ野は行います。

3

人には愛情を注ぐことを基本とし、利用者を敬愛し、
心身の自立の支援をロゼホームつきみ野は行います。

設立 30 周年記念誌発刊にあたって



社会福祉法人 二津屋福祉会
理事長 大谷 賢二

社会福祉法人二津屋福祉会設立 30 周年記念誌を発刊するにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

平素より当法人つきまして、格別なるご指導、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、二津屋福祉会は令和 7 年 12 月 18 日をもちまして、設立 30 周年を迎える運びとなりました。

これもひとえに皆様の温かいご支援のお陰であります。心より感謝を申し上げます。

この 30 年を顧みますと、二津屋福祉会発足時は土地バブルの絶頂期であり、日本経済が世界を席巻している中での船出でありました。施設建設用地の確保が最大の課題であり、整備費は公費の助成金と社会福祉医療事業団の潤沢な貸付金の返還への助成金制度も整備されていました。公的介護保険制度も歩きながら国も検討中でありました。国の措置費を根拠に運営する状況でありました。特養を主体に 5 の事業を運営することでスタートをしました。3 年後には公的介護保険制度が実施されました。この 30 年間を振り返ると多少なりとも、地域の高齢者福祉のお手伝いできたのではないかと考えています。

感動・謙虚・敬愛を事業の基本理念とし、2050 年を当面の目標とし、現行のサービスの継続と地域福祉の向上を目指し、役職員一同、一丸となって事業に取り組む決意を新たにしています。

今後とも、ご支援とご協力を賜りますよう、宜しく願いを申し上げます。

祝辞



大和市長
古谷田 力

社会福祉法人二津屋福祉会が設立 30 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。貴法人におかれましては、平成 7 年に特別養護老人ホーム事業を主体とした法人が設立され、平成 9 年には「特別養護老人ホームロゼホームつきみ野」の事業を開始され、高齢者施設の拠点として着実な歩みを進めてこられました。とりわけ、当時の「措置・委託制度」を経て、平成 12 年からは「介護保険制度」へと移行するという、大きな転換期を現場で支え続けられたことは、本市の高齢者福祉の発展にとりまして大変重要なものであり、深く感謝を申しあげる次第です。

また、市内では唯一となる軽費老人ホーム「ケアハウス」を設置され、介護認定を受けていない方から、認定を受けながらも身の回りのことは自立して過ごされている方まで、幅広い方々が安心して生活できる居住の場を提供してこられました。独り暮らしに不安を抱える高齢の方々にとって、心強い拠り所となり、人々が安心して暮らせる地域づくりに大役を担ってこられました。

ロゼホームつきみ野が立地する下鶴間・つきみ野は、市内でも人口・高齢者人口ともに多い地域であり、貴法人が運営されている「下鶴間つきみ野地域包括支援センター」では、専門職の皆様が情熱をもって総合相談や介護予防ケアマネジメントに取り組まれています。地域に寄り添い、住民の方々に安心を届けていただいているその姿勢に、深く敬意を表するものであります。

さらに、職員の皆様が日頃から自治会の防災訓練の支援、社会福祉協議会の活動、児童や高齢の方の行事サポート、さらには共同募金活動など、地域社会の一員として積極的に参加されていることは、施設の枠を超えて地域に根差した取り組みの表れであり、まさに地域包括ケアの理念を実践されているものと存じます。

本市におきましても、誰もが幸せを実感できるまちづくりを進めてまいりますので、相互の連携をさらに深め、地域福祉の推進に向け、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、社会福祉法人二津屋福祉会が、これからも地域福祉の拠点として発展されますことを心よりご期待申し上げるとともに、大谷理事長をはじめとする職員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、30 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



社会福祉法人大和市社会福祉協議会 会長 濱田 和博

このたび、社会福祉法人二津屋福祉会様が創立 30 周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

地域に根ざした福祉法人として、長年にわたり多様な事業を展開され、地域住民の皆様の暮らしに寄り添ってこられたご功績に、深く敬意を表します。

二津屋福祉会様は、介護・高齢者福祉など幅広い分野において、専門性と温かさを兼ね備えた支援を提供されており、地域福祉の担い手として欠かせない存在であります。特に、地域包括支援センターの運営を通じて、地域住民の皆様の暮らしに寄り添い、相談・支援の拠点としての役割を果たされていることは、地域に安心をもたらす大きな力となっております。

また、地域の協議体事務所に出張して認知症カフェを開催されるなど、地域の実情に即した柔軟な取り組みも展開されており、住民の皆様から大変喜ばれております。こうした活動は、地域のつながりを育み、誰もが安心して暮らせるまちづくりに大きく貢献されています。

そして、地元の下鶴間つきみ野地区社会福祉協議会との連携を通じて、地域の声に耳を傾けながら、共に福祉のまちづくりを進めてこられたことは、私ども大和市社会福祉協議会にとっても大変心強く、ありがたいことと存じます。

私ども大和市社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として、地域住民および福祉組織・関係者との協働により、地域生活課題の解決に取り組み、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる地域社会づくりを使命としております。そのような中で、二津屋福祉会様との連携は、地域福祉の推進において欠かすことのできない力であり、今後とも共に歩みを進めてまいりたいと存じます。

30 年という年月には、数え切れないほどの出会いと支え合いがあったことと存じます。その積み重ねが、今日の信頼と実績につながっていることは、同じ地域福祉に携わる者として大きな励みとなるものです。

今後とも、地域福祉の推進に向けて、二津屋福祉会様と手を携えながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指してまいりたいと存じます。

末筆ながら、二津屋福祉会様のさらなるご発展と、職員の皆様のご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げます。

祝辞



二津屋福祉会財務顧問
税理士 鈴木 康太

社会福祉法人 二津屋福祉会が法人設立から 30 周年を迎えますことを、心からお祝い申し上げます。

平成 9 年 4 月の「特別養護老人ホーム・ケアハウスロゼホームつきみ野」の施設開設に向けて、平成 8 年 1 月に日比野設計の岡崎氏より紹介され、財務会計担当税理士として関与することになり 30 年の歳月が流れました。

当時は国の老人福祉ゴールドプランに基づき、老人ホームの開設が神奈川県各市町村で急務でした。平成 9 年 4 月に、(社福) 二津屋福祉会は特別養護老人ホームと大和市で初めて国の新規事業であるケアハウス施設を開設しました。

平成 12 年の介護保険が導入されるまでは、特別養護老人ホームは税金で運営する措置施設でした。しかし入所施設だけでなく、短期入所事業と通所事業(大和市補助金)の在宅サービスも併設しました。ケアハウスは利用者からの入居金と利用料負担金がある新しい施設運営形態でした。神奈川県で 3 番目の開設で、運営方法が確立していなく当初は運営が大変でした。

平成 12 年に国が介護保険制度を導入し、税金から 40 歳以上が負担する介護保険料収入で運営されるようになりました。その結果、老人ホームは目的が運営から経営と方針が変わり、法人独自の経営が求められることになりました。社会福祉法人会計も大幅に変更になり、事務担当者は大変な苦労をしました。また収入の請求も措置時代の利用者 1 ヶ月あたりでなく、1 日当たりとなり保険請求事務も複雑になりました。パソコンが導入され、事務職だけでなく、介護職・看護職まで入力するようになりました。介護保険制度も 25 年を経過し神奈川県の介護施設の経営も厳しい状況です。少子高齢化時代で老人問題はこれからも増加します。地域の老人福祉の拠点として(社福) 二津屋福祉会はますますその存在を期待されます。役員の皆様、施設職員の皆様方のご活躍をご期待申し上げます。

祝辞



設立当初からの評議員

細野 武文

創立 30 周年を心からお祝い申し上げます。

社会福祉法人 二津屋福祉会は、設立準備会が平成 7 年 5 月 28 日に開かれ、同年 12 月 15 日に設立が認可され、17 日に設立全体会議が開催されました。

設立の準備は、大和市役所に長年勤務され、行政経験豊かな大谷徳治施設長（現常務理事）を中心に理事長、事務局の皆様により、設立許可申請、施設建設、事業計画、定款・規程作り、組織作り、受け入れ体制づくりが着々と進められ、平成 9 年 4 月 1 日に事業を開始しました。

そして、社会福祉法人として、高齢者の皆様に良質なサービスを提供し、安心して利用して頂ける施設の運営が行われてきました。

30 年の歴史は、事業遂行と健全な財政状況に見ることができます。事業内容は、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、在宅介護支援、ケアハウスと多岐にわたりますが、組織管理、財政運営、人事管理、介護保健環境の変化等に対応した健全で継続的な運営がなされてきました。新型コロナウイルス流行による突然の社会環境の変化やインフルエンザの流行にもしっかりと対応してこられました。

また、レクリエーション、クラブ活動、催物等の高齢者が心豊かな長寿を喜ぶことができるサービスの提供にも努められ、充実した福祉施設として運営されてきました。

大和市北部地区の老人福祉の拠点として、理事長はじめ役職員の皆様が日夜努力され、その役割をしっかりと果たしておられることに敬意を表します。

先日、総務省は、敬老の日に合わせて、65 歳以上の高齢者の推定人口が 3619 万人、総人口に占める割合が 29.4% と過去最高を更新したと発表しました。福祉施設の役割はますます高まっています。

高齢化、少子化社会を迎え、介護保険財政の環境には厳しいものがありますが、二津屋福祉会が時代の要請に応え、利用する皆様に喜ばれ、愛される福祉施設として健全に発展していくことを願っています。

最後になりましたが、30 周年のこの良き日を迎えることができましたことは、行政当局をはじめ、地域の皆様方、ボランティアの皆様方のご指導ご支援の賜物でございます。厚くお礼申し上げます。



30年を思い返して

社会福祉法人 二津屋福祉会

業務執行理事（創業者） 大谷 徳治

今、私は30年前には大きな銀杏の木があった真下に建てられた事務室内のパソコン画面と向き合っています。ここには、150年以上の年輪を刻んだ3本の銀杏の大木がありました。施設の開所式の記念品としてマナイタを作成し、出席者に贈呈しました。

現在6の事業を展開していますが、“今は昔”30年前のことが思い出されます。平成4年5月25日に当時の大和市の老人担当課長であった故加藤泰三氏から“大谷君、そろそろ財務の仕事は卒業し、老人施設を経営してみないか”との提言がありました。

父を21歳で亡くした私は、大和市勤務も約30年となり、その3年前の49歳の時に国外視察のチャンスに恵まれ、1989年11月9日に偶々ドイツのベルリンの壁崩壊の当日に遭遇いたしました。このように社会が大きく変動し、東西冷戦から南北冷戦に世界は変動するのではないかともいわれていました。ベルリンの中心地帯から少し離れた土地が1坪25万円程度とも聞き、驚きました。当時の日本はバブルの頂点にありました。曾祖父徳太郎、祖父治国、そして父富与が代々所有管理し、地域の人々からは“城山”とも呼ばれ親しまれた山林が第一の候補地でもありました。地域社会における高齢者入所施設の必要性と、自己の所有する土地の将来利用も検討し、家族と話し合い2日後に概ね実施の方向を回答しました。当初の予定地は北大和小学校の東側の山林でありましたが斜面地であり建設工事費の増大や城山跡地とも呼ばれた埋蔵文化財の埋設地でもあったために断念し、“二津屋公園”とも呼ばれていた現在地がほぼ同じ面積が確保できることからここに変更し建設地としました。

施設の名称については、平成6年5月に静岡県富士市に行政視察に行きました。富士市文化会館（1632席の大ホール）の通称が“ロゼシアター”でありました。人が集まり憩える場を目指した施設でありました。この時、“ロゼ”は人の温かさ、思いやり、人への愛を表現しているものと理解し、当地区のつきみ野を合成し“ロゼホームつきみ野”を施設の名称としました。工事中、地区の皆様には、土砂の搬入、搬出、騒音等々多大なご迷惑をおかけしました。皆様方のご理解とご協力により無事建物が竣工し現在に至りました。

施設開設1年目は、我ながら心身ともによく動いたと現在でも思いおこされます。33年前から今日まで、多くの方々からご支援・ご協力を頂きお陰様で今日があります。感謝を申し上げます。今後とも宜しくお願いを申し上げます。

銀杏のマナイタの由来

辞書によれば、いちようは「公孫樹」とも表現され、これは先祖が種をまけば孫の代になってその実が得られる意の命名とされています。

この度、(特別養護老人ホーム) ロゼホームつきみ野の開所にあたり記念品として贈呈いたしますマナイタは、本施設内に植生していた銀杏から作成したものです。

この地は、私の曾祖父徳太郎(万延元年5月～昭和6年8月)の頃から地域の人々には“二津屋公園”とも呼ばれ親しまれてきました。そして、祖父治国(明治20年5月～昭和20年4月)は、私の誕生を祝ってくれまして(昭和15年、皇紀2600年)松の木を植栽してくれました。その後の終戦と社会経済体制の大変革においても、父富与(明治41年10月～昭和36年12月)は、この植林により山林としての保存が認められ今日に至りました。

この中にありました銀杏の大木は、春には萌黄色に芽吹き、夏には緑陰を提し、秋には黄金色となりギンナン(銀杏)の実を落としました。この実を拾い、皮をむき、水洗いをし、乾燥し出来上がりですが、台風や風雨の後には家族全員で拾ったことや、皮むきの大変さが思い出されます。冬には雄雄しい銀杏の木の全容が現れ、四季を通じて地域の人々に親しまれ、この銀杏を絵画や詩歌のモチーフとした人もありました。

このような銀杏の木から作り出したマナイタでありますので落成記念の品としました。

粗品とは存じますがご使用頂ければ幸いです。

平成9年3月吉日

理事 大谷 徳治



平成9年3月28日 開所式記念品 挨拶文から

施設長 大谷 誠

(28年9ヶ月勤務)

**30年間 ご支援、ご協力
いただきありがとうございます
ございました**



この度、皆様のお力添えにより記念誌を発行することができましたこと、心から感謝申し上げます。ご利用者・ご家族の皆様にはご利用いただき感謝申し上げます。また、地域の皆様、行政、関係団体の皆様、ボランティアの皆様、取引業者の皆様には、ご支援、ご協力いただき感謝申し上げます。そして、現在勤務している職員の皆さん、過去に勤務されていた職員の皆さんに感謝申し上げます。

この30年を振り返りますと、開設者である父・徳治と共に、事務長として15年間、その後、施設長として13年間、携わって参りました。平成9(1997)年4月の高齢者福祉事業開始時には、特別養護老人ホームを主に5事業で始めましたが、現在は6事業を行っております。

個人的には、開所した年の平成9年に神奈川県による指導監査時、当初想定していたより中重度の入所者の方が多く入所されていたため、監査官より介護面で多くの指摘、指導を受けましたが、2年後の指導監査時には、同じ監査官より、「2年間、皆よく頑張った、改善された」旨の言葉を聞き、職員皆で喜んだ覚えがあります。当時、勤務していた職員の皆さんの努力が当施設の礎を作り上げていただいたと思います。

また、令和2(2020)年、世界規模で感染が広がった新型コロナウイルス感染症においては、当施設でもかなり厳しく感染症対策が行われ、特別養護老人ホームの入所者・ご家族の皆様には、面会の制限・中止、行事の中止等でご迷惑をおかけしてしまい大変申し訳ありませんでした。当施設の特別養護老人ホームでは感染予防対策を講じて防いでまいりましたが、残念ながら令和4(2022)年7月末に初めて特別

養護老人ホームのご入所者の方で感染者が発生し、瞬く間にご入所者様27名、職員15名が感染し、2階の特別養護老人ホームは完全隔離されました。数名の介護職員は家族に感染させないため、自宅に帰らず宿泊施設から職場に通い、また介護職員が感染すると当時は自宅療養となったため、勤務できる職員が徐々に減っていき、限られた介護・看護職員で対応することとなり大変な思いをさせていただきました。幸いにして1ヶ月程度で収束することができました。県、保健福祉事務所等の行政機関の熱心な指導のお陰や、職員の高い使命感、責任感で、乗り越えてもらいました。

まだまだ多くの出来事がありましたが、多くの方々に支えられ、当法人はおかげさまで30年の節目を迎えることができました。

引き続き、法人の理念である「感動」・「謙虚」・「敬愛」の精神のもと、当施設の事業を継続して参りたいと思います。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

経営財務室長 高下洋平

(28年9ヶ月勤務)

法人設立30周年おめでとうございます。私が入職したのは、ロゼホームつきみ野が開所した日になりますが、実際はロゼホームつきみ野建設中平成8年の夏ぐらいから開所準備のお手伝いをしておりました。オープニングスタッフ募集・面接や開所式の準備等、毎日バタバタと仕事をしていただのを思い出します。

ロゼホームつきみ野以前の職歴は一般企業のサラリーマンでOA機器の営業とガソリンスタンドに車両の部品やカーケア用品の営業販売をしておりました。

私はロゼホームつきみ野という福祉施設が何をするとするか福祉そのものがわからないまま入職してしまいました。今もそうですが毎日、はじめての仕事があり、いろいろなご利用者様ご家族様、職員にいろいろとご指導いただいたことが日々の勉強となり、30年たってもまだ

まだ未熟で、新人で入職した職員に「高下さんは、いつからロゼホームにいつ就職したんですか?」と聞かれても、恥ずかしくてとても答えられないでいる現在です。事務の高下から高下室長になっても仕事は変わらず事務方で。現在も私が作成した職員の使用している時間外勤務簿や有休休暇簿等は、ほぼ30年同じ書式で職員が使用されていて、平成12年からの介護保険制度は3年ごとに改正される度に対応し、過去の震災や感染症の対応にも前職のサラリーマン時代の物品の仕入れや事務機器の取扱いの経験は大変役にたっていると思います。

ある日デイサービスを見学に来た利用者家族が見学の最後に「サービスは良いけど、玄関にゴミが落ちていたから利用しない。」と言われたことがありました。それ以降、私は定時勤務より少し早く出社して職員玄関に次に事務所、そして正面玄関を簡単な掃除をし、1階のデイサービスのロビーや廊下をモップで掃除してから、一日の業務が始まります。もちろん、清掃は掃除の職員にまかせておけばよいと思っていたのですが、デイサービスの利用者さんが廊下で歩行訓練している時に少しでも綺麗であったら、少しでも明るい職場になるかと、思いながら簡単な掃除をしております。掃除をはじめから仕事の細かい事に気づきと効率を考える時間が増えたと思います。

入社してから月日は確実に30年を経過していて、ある利用者のお孫さんに「ロゼホームつきみ野の場所がわかりますか?」と私が聞いたところお孫さんは、小学校のロゼホームつきみ野との交流や夏祭りで訪問したことがあるので場所は知ってますと答えていただき、この大和市の北部地域にはロゼホームつきみ野は、私が思っているよりはるかに有名になっていて、最初のロゼホームつきみ野のご利用者のご家族が「昔、両親がお世話になって、今度は私がお世話になります」と言われたいのを聞いて、これからも地域に未永く信頼されるサービスを提供していきたいと思います。

事務長 大谷晶浩 (21年0ヶ月勤務)

この場所にロゼホームつきみ野が建って、もう30年になるんですね。あらためて、おめでとうございます。

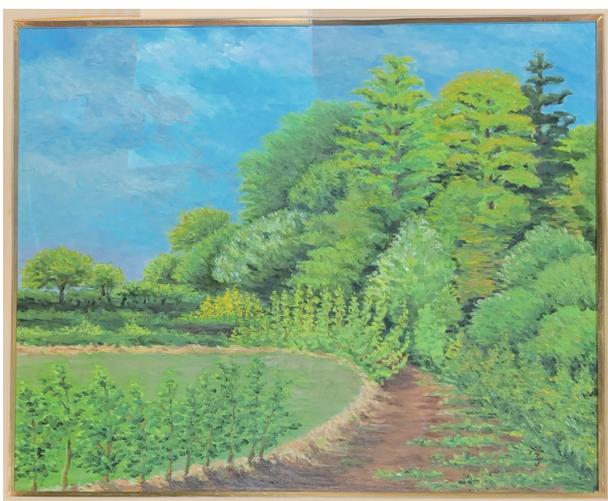
実はこの場所、私が子どもの頃、友達と一緒によく遊んでいた森だったんです。

木に登ったり、秘密基地を作ったり、夕方まで夢中になって遊んでいた思い出の場所。そんな場所で、今はご入居者様や職員の皆さんと過ごしていることに、不思議なご縁を感じています。

私は現在、相談員としてご入居の相談や対応をしながら、事務長として施設運営や人事にも関わらせていただいています。最初は慣れないことも多く、戸惑うこともありましたが、気づけばたくさんの方々との出会い、支えられながらここまで来ることができました。ご入居様やご家族から「ここに来てよかった」と言っていた瞬間、職員が成長して頼もしくなっていく姿、どれもこの仕事の大きな喜びです。

これからも、この“思い出の森”の上で、安心して暮らせる場所、働きがいのある職場をつくっていけるよう、微力ながら頑張っていきたいと思います。

改めて、30周年おめでとうございます。そしてこれからも、みんなで温かい施設をつくっていきましょう。



つきみ野在住者寄贈 公所桜橋からの絵 昭和60年頃

特養サービス指導室長 出口生美

(24年9月勤務)

私が現在の家に引っ越してきたちょうどその頃、近くの森で大規模な開発が始まり、近代的なデザインのロゼホームが誕生しました。

ご縁があって就職させていただくことになり、気が付けばもう二十四年が過ぎました。しばらく看護師の仕事から離れており、高齢者施設というところを知らずに過ごしてきた私にとって、始めは緊張の連続だったのを覚えています。

医師不在の、病院ではない場所で働くのは初めての経験で、とても不安に思ったものでした。そんな中、先輩から言われた言葉が心に響き、それからずっとそうありたいと思って仕事をしてきました。「誰も住み慣れた家にいたいよ。病院に行きたくはない。だから私達は看護師ですって顔してちゃダメ。一緒に座っておしゃべりしてさりげなく体に触れて熱かったら熱を測ればいい」。私もそんな気遣いのできる看護師でありたいと思ったものでした。

ロゼホームには行事がたくさんありました。春の遠足、夏には浴衣・はっぴに着替えて夏祭り、秋は職員手作りの敬老会。私もモンペをはいて麦畑を踊りました。どんな時も大笑いの笑顔がありました。そこで見せてくれる笑顔は、どの方も本当にキラキラして、元気いっぱいに見えました。

現在、介護業界は決して恵まれた状況にあるとは言えません。今後もきっと厳しい状況は続くのだと思います。でも、歓声とともに見上げた夏の夜の大輪の花火が、一人一人の方にとって楽しかったロゼの思い出として心に刻まれたことを願うと同時に、ロゼホームがいつまでも、安らげる終の棲家として、この地に存在し続けることを願ってやみません。

特養主任生活相談員 八里展郎

(28年9月勤務)

無資格、未経験で右も左も分からず介護の世

界に飛び込んで30年。

今思うとあっという間の30年間でした。入職時はデイサービスに配属され17年間在籍し、平成26年からは特養へ異動となりました。

ここまで続けて来られましたのは、職場の良い環境と素晴らしい人間関係、そして、なによりもこれまで関わってきた人生の大先輩であるご利用者様との出会いだと感じております。時には相談に乗っていただいたり励ましてくださったり、また、様々なことで背中を押してくださったのもご利用者様でした。

デイサービスを任されていた時、今でこそ外国籍の職員の受け入れを積極的に行っておりますが、当時初めて外国人を受け入れようとした際に、本当にご利用者に受け入れてくださるか非常に悩みました。あるご利用者様から「八里さんがいいと思ったらいいと思うよ」と言ってくださったことで、自身を信じることができ前に進むことができました。また、特養への異動が決まった時は、急な人事異動でしたので困惑していたところ、「異動は自分を成長させるチャンスだ」とご利用様から励ましてくださったことで、モチベーションを高めて新天地へ出向くことができました。

たくさんのご利用者様との出会いがあって支えてくださったからこそ、今の自分がある。ご利用者様の方々には本当に感謝しかないと考えております。これからもたくさんのご利用者様との出会いを楽しみに、そして、ロゼホームつきみ野の発展のために尽力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

デイサービス主任 上原 健

(28年9月勤務)

思えばあっという間の30年でした。専門学校の同級生の勧めで一緒に採用試験に臨み、つきみ野学習センターで筆記試験を受けました。受験者が非常に多く、未熟な私には絶望的な状況でしたが、落とされず驚きました。面接では、ロゼホームの前の敷地にプレハブが建って

いて、そこで常務理事と奥様お二人の面接を受けました。緊張して挑みましたが、実際は自分の当時住んでいた地域の事を話し、常務理事もその土地に面識がおありで、地域の話に花を咲かせて、和やかに終わってしまいました。不合格を覚悟しましたが、採用の通知を頂き更に驚きました。後から思えば、常務理事や奥様のお人柄だったのだらうと思います。就職してからも知識も人生経験も無い私は失敗の繰り返しで、周りの職員にも大変迷惑を掛けてしまいました。30年勤続出来たのは、ご利用者の皆さん、そして一緒に働いてきた職員皆さんのおかげです。今回も直接常務理事からお話を頂き、筆を持たせて頂きました。デスクスタッフルームに直接赴いて下さり、作文の依頼を頂きましたが、あの時はあーだった、こうだったと回想しながら過ごした時間はとても有意義でした。いつも経営の事でお忙しい常務理事ですが、現場であった出来事を懐かしく思いながら話が出来て嬉しく思いました。

今後も事業が継続していく為にお役に立てられるよう頑張りたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。

特養介護主任 針 裕視 (25年8ヶ月勤務)

今年で入社して25年目となり、特養のケアワーカー一筋でやってきました。

ほぼ四半世紀の介護職のキャリアをロゼホームと共に歩んでまいりました。

入社時は、ホームヘルパー2級（現 初任者研修）の資格のみで介護経験もなく何もわからない状態でしたが、先輩の熱心な指導や施設の雰囲気よかったこともあり今に至っています。

振り返ると多くの出来事がありました。

2011年には、東日本大震災が発生し、施設として被害はなかったものの計画停電や物品の不足、繰り返される被災地の報道など、被災された方々とはくらべ物にはなりません。ご利用者さん共々不安な日々を過ごしたことを思い

出します。その中で何か被災地の役に立てないかと考え、被災地に職員を派遣するなどの取り組みを行ってきました。改めて日常の大切さを実感する出来事でした。

また、2022年には新型コロナウイルスという未知の感染症の発生がありました。当初は、戸惑いの中、情報収集しながら対応を検討したり、現場の感染者の対応、職員の健康状態の確認から、シフトの調整、御家族様やボランティアさんなどの外部の方々の出入りの制限など、目まぐるしい日々でした。職員一同、ご利用者さんを守ることを第一に必死に対応にあたりました。

ここ数年の課題としては、人材不足があげられます。一時期は、必要な職員数の6割しか職員がいない時期がありました。施設としては、合同就職説明会の参加や専門学校への訪問、初任者研修への講師の派遣などの取り組みを行い、2023年には特定技能外国人の受け入れも開始し、人材確保に努めています。

これまで、終の棲家として多くのご利用者さんとの出会いと別れを繰り返してきました。楽しい時間だけでなく、悲しい時やつらい時もありました。ただ、それらの多くの出来事を乗り越えることができたのも一緒に働いている仲間がいてこそでした。

当施設では介護はチームワークと考え「和」をととても大切にしてきました。一緒ががんばる仲間がいて、仲間で協力してこそ、ご利用者の支えになれると実感しています。人、仲間があって介護という仕事が成り立っています。

これからも人を大切にする施設であるよう努めていき、仲間に感謝し日々のケアにあたっていきたいと思っています。

役員等退任者記録

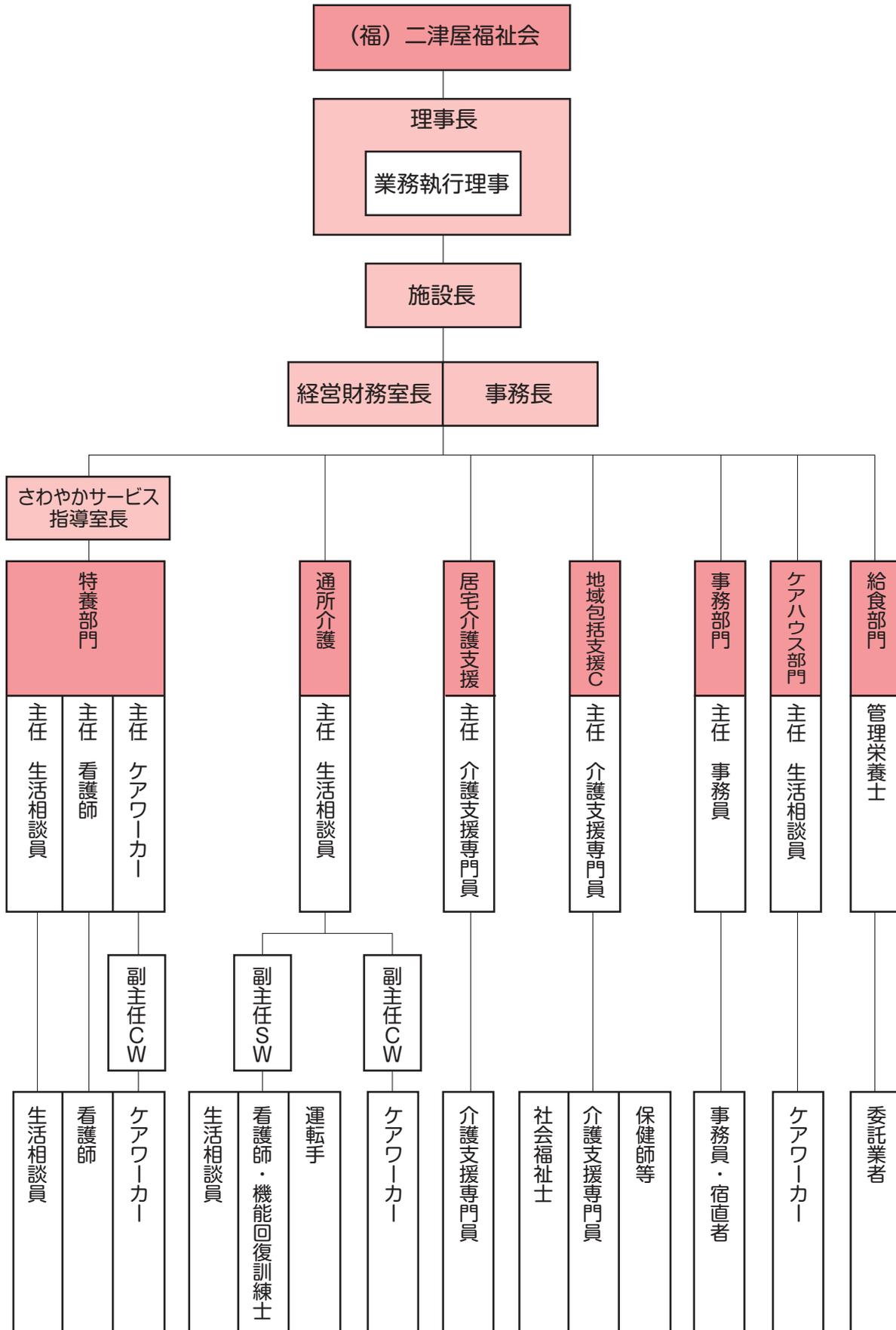
令和7年12月19日現在

NO	氏名	就任年月日	退任年月日(逝去：在任中)	在任日数	役員等区分
1	鈴木 史郎	(1995) 平成7.12.18	(1999) 平成11.12.17	4年0カ月	●
2	浜田 賢	(1995) 平成7.12.18	(2001) 平成13.8.12逝去	5年9カ月	◎
3	座間 富蔵	(1995) 平成7.12.18	(2009) 平成21.12.17	14年0カ月	○
4	大谷 利昭	(1995) 平成7.12.18	(2010) 平成22.12.30逝去	15年1カ月	◎
5	高下 晴明	(1995) 平成7.12.18	(2011) 平成23.2.21逝去	15年2カ月	○
6	加藤 泰三	(2001) 平成13.12.18	(2011) 平成23.7.11逝去	9年8カ月	◎
7	田辺 裕	(1995) 平成7.12.18	(2011) 平成23.12.17	16年0カ月	●
8	大迫 謙一	(1999) 平成11.12.18	(2012) 平成24.11.21	12年11カ月	●
9	大谷 語	(1995) 平成7.12.18	(2014) 平成26.12.3逝去	19年0カ月	○
10	梅沢 茂	(2012) 平成24.12.2	(2015) 平成27.12.31	3年3カ月	●
11	石井 和男	(1995) 平成7.12.18	(2015) 平成27.12.17	20年0カ月	○
12	佐藤 忠良	(1995) 平成7.12.18	(2015) 平成27.12.17	20年0カ月	◎
13	佐藤 英雄	(1995) 平成7.12.18	(2017) 平成29.3.31	21年4カ月	◎
14	大谷フミエ	(1995) 平成7.12.18	(2017) 平成29.3.31	21年4カ月	◎
15	鴨打 美葦	(1995) 平成7.12.18	(2017) 平成29.12.31	22年0カ月	◎
16	佐藤 光徳	(2011) 平成23.12.18	(2021) 令和3.5.31	9年6カ月	●
17	太田 宏保	(2011) 平成23.5.25	(2021) 令和3.6.5	10年1カ月	○
18	大谷 信子	(2011) 平成23.6.12	(2025) 令和7.6.7	14年0カ月	◎

○：理事 ●：監事 ◎：評議員

組織図

令和7年3月31日現在



役員構成／職員構成

1. 役員 (理事6名・監事2名・評議員7名)

令和7年12月18日現在

理事	監事	評議員	評議員選任解任 委員会委員
大谷 賢二 (理事長)	松本 澄夫	細野 武文	松本 澄夫 (監事互選)
大谷 徳治 (業務執行理事)	岩本 信也	清田日出夫	大谷 晶浩 (事務局管理職)
相澤 昭一		相原 保	石井 浩 (外部委員)
伊部 啓之		村瀬てる代	
古谷田紀夫		木下 晴男	
大谷 茂里		星野さゆり	
		川口 敏治	

2. 職員 (常勤54名・非常勤57名)

令和7年3月31日現在

区分		介護老人福祉施設	短期入所生活介護	常勤換算	一般予防型通所介護	常勤換算	居宅介護支援	常勤換算	地域包括支援センター	常勤換算	ケアハウス	常勤換算	事務・栄養・当直	常勤換算	合計	常勤換算
施設長	常勤												1	1	1	1
事務員	常勤												2	2	2	2
	非常勤	1	0.9										2	1.8	3	2.7
さわやかサービス 指導室長	常勤	1	兼務												0	0
介護支援専門員	常勤	1	0.7			10	10	2	2						13	12.7
	非常勤							1	0.7						1	0.7
生活相談員	常勤	1	1.3 兼	1	1.8 兼			2	2	1	1				5	6.1
	非常勤							1	0.8						1	0.8
介護職員	常勤	21	21	4	3.2 兼					1	1				26	25.2
	非常勤	11	8.9	17	8.7					2	1.4				30	19
看護師・機能訓練 指導員	常勤	4	4					2	2						6	6
	非常勤			10	3.1										10	3.1
栄養士	常勤												1	1	1	1
運転士・当直等	非常勤	1	0.4	6	2.3								5	1.2	12	3.9
合計	常勤	27	27	5	5	10	10	6	6	2	2	4	4	54	54	
	非常勤・派遣	13	10.2	33	14.1	0	0	2	1.5	2	1.4	7	3	57	30.2	

法人誕生からの沿革

1995

平成7年

- 5月26日 施設整備費国庫補助金の内示
- 5月28日 社会福祉法人二津屋福社会設立準備会開催
- 9月18日 建設工事起工式を実施
- 11月21日 社会福祉事業法第29条第1項に基づく申請書を県提出
- 12月15日 社会福祉法人二津屋福社会の法人設立認可
- 12月17日 設立者全体会議、第1回役員会開催
理事長に大谷賢二就任
- 12月18日 社会福祉法人二津屋福社会の法人登記終了

1996

平成8年

- 1月1日 設立者大谷徳治より土地4,895.87㎡（大和市下鶴間418番2）寄付
- 3月7日 基本財産の土地の登記完了
- 10月27日 職員採用試験実施

1997

平成9年

- 2月28日 特別養護老人ホームロゼホームつきみ野竣工（4571.44㎡）
- 3月12日 ケアハウスロゼホームつきみ野設置届け（社会福祉事業法第57条）
- 3月27日 特別養護老人ホームロゼホームつきみ野の設置認可（定員50人）
施設長に大谷徳治就任
- 3月28日・29日 開所式挙行（405人出席）
- 4月1日 特別養護老人ホーム事業開始
ケアハウス事業開始
大和市と委託契約を締結・事業開始
（デイサービス・在宅介護支援センター・短期入所の核事業）
- 9月1日 相模原市と短期入所事業契約締結・事業開始

1998

平成10年

- 4月1日 大和市とホームヘルパー派遣事業委託契約締結・事業開始
大和市及び相模原市と委託契約を締結・事業継続

1999

平成11年

- 4月1日 大和市及び相模原市と委託契約を締結・事業継続
- 10月1日 介護保険法による居宅介護支援事業開始

2000

平成12年

- 4月1日 介護保険法による訪問介護・通所介護・短期入所生活介護・
介護老人福祉施設の事業開始
大和市と在宅介護支援センター委託契約を締結（17年度まで継続）

- 2001** 平成 13 年
 2月 1日 特別養護老人ホームの定員変更の認可 (50人→54人)
 11月 1日 通所介護事業サービス提供時間を延長
- 2004** 平成 16 年
 10月 1日 大和市と精神障害者訪問介護委託契約を締結
- 2005** 平成 17 年
 2月 1日 通所介護を 1 単位から 2 単位に拡大 (一般型 35 人・認知症型 10 人)
- 2006** 平成 18 年
 4月 1日 神奈川県・大和市から介護保険法による事業所指定 (介護予防)
 4月 1日 大和市と地域包括支援センター委託契約を締結 (令和 7 年度まで継続中)
 11月 5日 事業開始 10 周年記念式典・祝賀会開催 (招待者 87 名)
- 2007** 平成 19 年
 3月 31日 10 周年記念誌発行
- 2008** 平成 20 年
 4月 1日 神奈川県・大和市から介護保険法による事業所指定
 (平成 26 年 3 月まで)
- 2010** 平成 22 年
 11月 22日 根岸英一氏 (ノーベル化学賞受賞) 名誉市民称号贈呈式
- 2011** 平成 23 年
 3月 11日 東日本大震災発生
 10月 7日 基本財産 (土地) の変更登記終了 (4,911.46㎡)
- 2012** 平成 24 年
 2月 29日 特別養護老人ホーム増床工事 (10 床増加) 竣工
 3月 29日 基本財産 (建物) の変更登記終了 (4,856.07㎡)
 3月 31日 施設長大谷徳治退任
 4月 1日 常務理事に大谷徳治就任
 4月 1日 施設長に大谷誠就任
 4月 1日 特別養護老人ホーム定員変更 (54 人→64 人)・使用開始
 9月 30日 訪問介護事業休止
 10月 1日 通所介護事業サービス提供時間を延長
- 2013** 平成 25 年
 3月 31日 訪問介護事業廃止
 10月 1日 地域包括支援センター契約の一部変更 (地域・名称)
- 2014** 平成 26 年
 6月 1日 認知症型通所介護利用者定数を拡大 (10 人→12 人)

2016
平成 28 年

5月 1日 通所介護を一般型の2単位に拡大（さわやか40人、にこやか20人）

2017
平成 29 年

1月 27日 社会福祉法人制度改革に伴う定款認可（大和市長から）

4月 1日 新制度による評議員就任（任期4年）

6月 3日 新制度に大和市による理事・監事就任（任期2年）

9月 6日 大和市に20周年記念事業として寄付金贈呈

2019
平成 31 年

2月 1日 特別養護老人ホームの定員変更の認可（64人→68人）

2019
令和元年

5月 1日 元号が平成から令和に改元

2020
令和 2 年

1月 22日 その他の固定資産（施設隣接山林）291㎡を購入

2月 27日 安倍首相感染症対策として全小中高校に臨時休校要請

3月 31日 新型コロナウイルス対策委員会設置（職員で構成）

4月 7日 コロナ対策緊急事態宣言神奈川県に発令

5月 25日 コロナ対策緊急事態宣言全国で解除

2021
令和 3 年

1月 7日 コロナ対策緊急事態宣言神奈川県に発令

1月 20日 デイ利用者コロナ感染のためデイサービス事業休止

2月 10日 デイサービス事業再開（18日間休業）

3月 31日 コロナ対策区急事態宣言神奈川県で解除

4月 1日 通所介護を一般型の1単位に統合（定員50人）

8月 1日 特別養護老人ホームの定員変更の認可（68人→72人）

2022
令和 4 年

1月 6日 日本医師会長「新型コロナの感染拡大は全国的に第6波に突入」を指摘

1月 21日 神奈川県「コロナ蔓延防止等重点措置」の適用

2月 24日 ロシア軍のウクライナへの軍事進攻が発生

3月 18日 神奈川県「コロナ蔓延防止等重点措置」を解除

7月 24日 神奈川県に特養利用者でコロナ陽性者発生を報告

10月 1日 大地震発生時における生活用水確保契約を締結

2023
令和 5 年

11月 30日 施設全体空調設備改修工事終了

2024
令和 6 年

7月 1日 新札（1万円・5千円・千円）発行

2025
令和 7 年

1月 21日 第47代アメリカ大統領にトランプ氏が就任

12月 18日 1995年（平成7年）12月18日法人登記日から丸30年を迎える

特別養護老人ホーム ロゼホームつきみ野

平成9年4月1日事業開始

指定介護老人福祉施設 定員72床

指定短期入所生活介護 定員8床

介護度要介護3以上の方がご利用されています。近年、新型コロナウイルス感染症の流行と共に面会の制限、行事の縮小、外出・外食の機会が減ったこともありましたが、利用者個々のニーズを的確に把握し、少しでも自立した生活が出来るように努めています。また、季節ごとの行事やレクリエーション・クラブ活動等を行ったり、地域の保育園や小学校との交流も行っています。これらを通じて楽しいホームでの生活を提供できるよう努めています。

特別養護老人ホーム・ショートステイ事業は、平成9年度の開始時に特養50床、ショート20床でスタートし、平成12年度にショート床4床を特養待機者が増加のため特養に転換しました。平成24年度には浴室のレイアウト変更に伴う特養10床の増床を行い、特養64床・ショート16床で事業を行ってきました。その後、特養入所待機者の増加やショートステイ事業所の増加もあり、ベッドの有効活用の観点から、県・市の承認を得てショート床4床を特養床に転換し、平成31年2月から特養68床・ショート床12床となりました。そして、令和3年8月には、さらにショート4床を特養床に転換し、現行の特養72床・ショート床8床となりました。

今後は、これまで以上にご利用者のニーズの多様化が予測されます。これらに柔軟に対応できるよう、引き続き感染症対策も図りながら職員研修を実施し、知識・技術の向上に努めてまいります。



事務所・厨房・相談員他



事務所



相談員



厨房



早田光子



宿直 大竹龍三



宿直 川口敏文



宿直 石塚順一



宿直 若林正明

デイサービスセンター ロゼホームつきみ野

平成9年4月1日 事業開始

事業種類 指定通所介護

介護保険法上の定員 50人(利用者の目標数値45人)

自宅から通える通所介護サービスです。介護認定により要支援・要介護と認定を受けた方が対象です。

令和4年度からは、2単位60人を1単位50人に変更しサービスを提供してきましたが、コロナ禍でのご利用者の利用控えや2単位での職員配置を実施していたため、経営の収支バランスが大きくマイナスとなりました。令和6年度からはこれを見直し、1日の利用者目標数を45人を目指し、介護保険法で定める人員基準を基本とし、サービスの向上に努めています。

在宅生活を1日でも長く継続できるように、足の筋力の維持を希望されるご利用者やご家族が多い状況です。回廊型の廊下を利用した歩行練習や専門の機能訓練士を配置した機能訓練は当事業所のアピールポイントにもなっています。

コロナの感染状況を見ながら、以前のようにボランティアや実習生の受け入れ、近隣の小・中学校の児童・生徒、近隣保育園の園児との交流が再開できる日を待っている状態です。

今後とも、サービス内容の適正化を図り、事業を継続し地域の高齢者の要望に応じて参ります。



居宅介護支援事業所 ロゼホームつきみ野

平成 11 年 10 月 1 日 介護保険法による事業開始

地域の高齢者の要望の強い介護サービス計画の作成等に応えるために、介護支援専門員を増強し、現在、常勤職員 10 名体制で行っています。大和市北部地域の居宅介護支援事業所の介護支援専門員の人数が少ないので、地域の要望に対応しています。

介護保険事業が平成 12 年 4 月 1 日から施行されましたが、その 6 カ月前に事業所を開設し 2 名の介護支援専門員を当法人の職員で確保し、スタートしました。

今後とも、公平・公正を基本とし引き続き質の高いケアプランの作成やケアマネジメントを行い、大和市北部地域の在宅者の支援に努めて参ります。



下鶴間つきみ野地域包括支援センター

平成 18 年 4 月 1 日 大和市委託事業

総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援と介護予防ケアマネジメントを実施し、約 9 千人の高齢者の心身の健康の保持、生活の安定を目的とした事業を大和市から受託しています。現在、この業務を社会福祉士 3 名、主任介護支援専門員 2 名、保健師等 2 名の職員で対応しています。

施設開所時は、在宅介護支援センターでスタートしました。

社会福祉士と看護師を配置し、主として総合相談に対応していました。平成 18 年度に介護保険法が改正され、3 職種の配置が絶対的な条件となり、現在の受託の状況になっています。

今後、ますます地域包括ケアシステムの推進に伴い、専門職員の充実が必要になると考えられます。



軽費老人ホームケアハウス ロゼホームつきみ野

平成9年4月1日事業開始 定員15人

個室 13室 2人部屋 1室

共有設備：食堂ホール・浴室・洗面所・洗濯室

入居の基準は、60歳以上で身体機能の低下があり自立した日常生活を営むことに不安がある方としており、施設側は食事と入浴の提供を行っています。毎月、利用者懇談会を開催し、ご利用者の要望・意見を聞き行事等に繋げています。

入居者の加齢に伴う身体機能の低下や認知機能の低下がみられるようになっていきます。

ご利用者が安心した生活が送れるように努めて参ります。





記念誌をご覧いただきありがとうございました。私たち二津屋福祉会は、地域の皆様のご支援により30年のあゆみを迎えることが出来ましたことを心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 二津屋福祉会は平成7年12月に設立され、これまで多くの諸先輩方からの「決断」が引き継がれ、現在に至っています。この30年間の歩みは、常に「人」と真摯に向き合い、その気持ちの積み重ねであったと思います。

新型コロナウイルス・世界経済の動向や情報化の進展により私たちの生活様式も変化し、これから先がどのように展開するかは想像できません。私たちが目指す「感動」「謙虚」「敬愛」の理念はこれからも変わることはありません。

二津屋福祉会ロゼホームつきみ野はこれからも地域の方々が生涯を通じて安心して過ごせる施設づくりを目指し、多職種が連携して前進してまいります。

最後になりましたが、記念誌作成に際して原稿の提出、文面のチェック、写真の掲載などご協力いただいた皆様には、心からお礼を申し上げます。

令和7年12月吉日

30周年記念誌作成委員会
施設長 大谷 誠



社会福祉法人 二津屋福祉会 30周年記念誌

2026年1月発行

発行 社会福祉法人 二津屋福祉会

〒242-0001 大和市下鶴間 418-2

編集 法人設立30周年記念誌編集委員会

印刷 株式会社アドタック



社会福祉法人 二津屋福祉会
(ロゼホーム つきみ野)